

矢吹町史

第3卷

資料編Ⅱ

第四編
近世

8 交 通

(一) 宿 駅

四一一〔年不詳蒲生秀行奉行満田内丞、矢吹宿問屋二付

安堵状〕

屋吹村といや之義、先規方其方持せ候、越後御代織部申掠、^(上杉)
 半分之通無^(カ)知行候、然共只今皆共扱元下之内、半分織部
 方、半分其方知行可^レ然候、此旨不^レ可^レ有^二相違^一候、為^レ其
 申候、以上、

十二月晦日

満田内丞（花押）

〔注〕 蒲生秀行会津ヲ領セシ時、仙道ヲ支配ス、安積辺ニモ
 此人ノ文書アリ

屋吹

宗左右衛門尉殿

〔楓軒文書纂石川文書〕

〔解説〕 慶長三年（一五九八）蒲生氏にかわつて会津に移り百
 二十万石を領した上杉景勝は、関ヶ原合戦の結果米沢三十万
 石に移され、宇都宮から蒲生秀行が会津六十万石に帰り咲い
 た。この文書は、慶長六年から寛永四年（一六二七）に至る

再蒲生時代のものである。蒲生氏の奉行満田内丞が、矢吹宿
 の問屋を織部と宗左右衛門とで半分宛勤めさせる裁決を報じ
 たもの。矢吹宿に関する史料の初見である。

四一二〔慶長十七年三月会津蒲生領中畑村問屋申達〕

〔蒲生氏奉行連署口達書写〕

口上

石川郡之内中畑村喜左衛門・半左衛門・新左衛門^(ツマ)両三人一
 方と、其方と、問屋公事之儀、双方目安口上申分再三令^二糺
 明^一候、然共又右三人申分ハ、掃部儀者元来問屋を仕不^レ来
 候間、商人荷付候事為^レ仕間敷旨申上候、又其方申分ハ、前
 々々付来候旨申上候、右之趣得^二御意^一候へハ、所詮若松町
 之並次第ニ申付候様ニと被^二仰出^一候ニ付、当町年寄共召寄
 相尋候所、商人荷之儀者不^レ及^二申ニ^一ハ、何荷ニても商人付次
 第之旨申候条、可^レ成^二其意^一候、何方方之商人荷物たりと
 云ふとも、上下共ニ付次第ニ可^レ相付^二候^一、向後対^二右三人
 ニ^一、不^レ殘意趣意根無^二申事^一様ニ可^レ令^二入魂^一義肝要ニ候、
 若此旨於^二相背^一ニ者、可^レ被^レ加^二御成敗^一旨ニ候間、可^レ致^二
 為^二其意^一ニ者也、

慶長十七

川 北 讃 岐

書判

三月朔日

池田和泉書判

満田内之丞書判

小倉左兵衛書判

石川郡中畠村

掃部とのへ

(某副状写)

猶御判状可ニ相守ニ儀、専用ニ候、已上、

石川郡之内中畑村喜左衛門・半左衛門・新左衛門右三人一方と、其方と、問屋公事之儀、双方申分目安口上、再三奉

行衆被_レ遂_ニ糺明_ニ候処、右三人申分へ、掃部義ハ元來問屋

を仕不_レ來候間、商人荷付候事為_レ仕間敷候由申上候、又其

方申分へ、前々付來候旨を申上候、右之趣被_レ得_ニ御意_ニ

候へハ、所詮若松町之並次第二申付候様ニと被_ニ仰出_ニ候ニ

付而、則半兵衛殿江当町年寄共被_ニ召寄_ニ御尋候所、商人荷

之義ハ不_レ及_ニ申ニ、何荷たりとも商人付次第之旨申上候条、

可_レ成_ニ其意_ニ由ニ而、何方_ニえ商人荷物たりと云ふとも、上

下共ニ付次第之旨被_ニ仰出_ニ候、然上其方利運ニ罷成候、是

ヲかつニのり不届申事仕候ハ、可_レ為_ニ曲事_ニ旨ニ候、対ニ

三人ニ入魂可_レ有儀、肝要ニ候者也、

慶長十七

三月朔日 太 右より

石川郡中畠村

掃部

四一三〔慶安元年十一月白河藩領中畑村問屋役申立書〕

乍恐返答を以申上候

一常陸海道前村次郎右衛門親掃部問屋ニ御座候と申上候義

偽リニ御座候掃部事ハ萩内と申在郷ニ罷有候所ニ源右衛

門と申者と田地之出入御座候ニ付而田地家屋敷共ニたか

へに取替申町之源右衛門か家屋敷ニ掃部が参源右衛門儀

ハ萩内と申在郷へ参候掃部左郷ニ罷有なから何として前

代より問屋可仕子細無御座候以上

一前代ハ新左衛門と申者問屋ニ御座候処ニかもんあに左近

と申もの釜子村居候故被_レ左近か才覚ニ而弟掃部所江荷物

遣し申候へ共少宛ニ御座候間只今迄罷有候前代之問屋と

申上候義問屋之せうこ少も無御座候

一郡御奉行中へ申上候ハ當時問屋之儀前々相定不申候間新

町海道被_レ下様ニ申書付差上申ニ付而問屋被_レ下候以上

石川郡中畑村

五郎右衛門判

同

慶安元年

権 平判

十一月廿九日

御奉行所様

相改無滞附送り可申候道法駄賃之書付別紙ニ仕進候通水戸海道と引合下直ニも御座候者以来此海道を御通し被下度奉願上候以上
元禄七歳戌十一月

関海道仁井田村

「裏面」

同所 次兵衛 小浜島井町

中畑新田立申ニ付問屋之儀本郷ニハ倅を差置問屋可被為仕候其方儀ハ今度立申新田ヘ罷出如前之間屋可仕者也

栃本 八右衛門 若宮 平三郎

丑三月三日 善 左判

川原田 理右衛門 針道町 三郎右衛門

兵 左判

（下ヶ紙）
「小作田より 三丁目 十五郎 川又町 平内

中畑村

守山迄太賃五 小作田 伊左衛門 小島町 平内

次郎右衛門

「拾文」
同所 八郎右衛門

〔中畑 岡崎長成家文書〕

守山町 彦四郎 手戸町

下行合 李右衛門 築 新左衛門

阿久津 十次郎 掛ヶ田町

鬼生田 平兵衛 与惣右衛門

白岩 太作 保原町

長屋 権兵衛 築川町 勘兵衛

仙台

御商人衆中

四一四〔元禄七年十一月白河藩領三城目村関街道申立書〕

以願書を申進候事

一甲州木綿荷物江戸より水戸鹿島通之分此海道を仙台迄御通し被下度奉存候関東海道之儀者武士之往行も無御座候ニ付□□□申義無御座候弥御通シ於被下ニハ荷物念を入



白河藩領三城目村関街道申立書

(名前は上段より下段へつづく)

〔大池 伊藤光之祐家文書〕

四一五 〔元禄十年十一月白河藩領中畑村問屋取極証文〕

証文之事

一万商人荷物付送り候儀村望之通りニ廻シ可仕候荷物参次
第私共支配可仕荷物無滞様ニ可仕候然共一度廻リ其者延
引ニ候ハハ先之者ニ付させ可申候

一馬指之儀先々通拙者□□□□可仕候尤駄賃錢附子之者
取ニ参候ハハ無滞相渡し可申候

一荷先之儀三城目より朝馬一度□□一日ニ二度つゝ手前馬
数ニ取可申候其外取申間敷候

一武士荷物之儀ハ荷口式文つゝ取可申候其外之儀ハ前々之
通支配可仕候

右之通少も相背申間敷候若相背申候ハハ何様ニ村望之通可
仕候為其証文依而如件

元禄十年丑ノ壬二月八日

中畑村問屋

七兵衛印

同 彦三郎印

同 〔欠〕

庄屋

百姓中

〔中畑 岡崎長成家文書〕

四一六〔寛保元年五月白河藩領中畑村荷口蔵敷書上之覚〕

荷口蔵敷書上之覚

一多葉粉荷物 沓駄ニ付四文宛

一本荷所荷物 沓駄ニ付五文ツム

一関和久より下り所荷物本荷沓駄ニ付五文宛

一茶荷物引荷 沓駄ニ付四文ツム

メ

右者私共上十日下十日宛しはい仕所荷物之義何れ之村江成共才料のそみにて次立仕荷口蔵敷書上申処相違無御座候以上

中畑村問屋

伊右衛門

同村同断

六兵衛

寛保元年

酉五月

荷口書上申覚

一水戸御領大子中江方より通り申候茶荷物若栗大竹村より

繼立須賀川市売之茶荷物川原田村中畑村同新田矢吹久来石笠石右六ヶ所沓駄ニ付四文ツ、荷口取須賀川江通し申候少も相違無御座候以上

寛保元年

中畑村問屋

酉五月

源太郎

〔中畑 岡崎長成家文書〕

四一七〔明和二年二月白河藩領三城目村荷物附送り請合

一札〕

指出申請合一札之事

一煙草荷物之儀当村中畑と引訳ケ其御村より当村江も繼来申候所中興ニ到リ当村江茂一切荷物相懸リ不申候而村内不為ニ茂御座候ニ付此度其御村江当村問屋永吉村内相談之上罷越及御相談ニ候所其御村附子中ニも御納得被下前々之通中畑と引訳ケ当村江茂荷物相懸申筈罷成候然ル上者当村江請候荷数之上ニ万々一荷物焼失仕候か或者盜被取候義有之候而も其村問屋中并附子迄之御難義ニ不相懸荷主中ハ勿論之義荷才料ニ至迄何方迄も急度引請可申候当村江受込候荷物ニ付彼是事入組六ヶ敷義出来候共又者

其品ニより御公辺御沙汰等ニも可相及変難出来候共聊以
其御村内御難ニ相懸申間敷候荷物之儀も何時ニ不限附送
リ荷主中并才料中不為之義不仕無滞附送可申候此一札之
儀も村内不残附子ニ至迄耆人も不洩及得心此一札指置申
処相違無御座候為後々違乱為無之一札仍而如件

明和二年酉二月七日

高田領滑津村附子代

利兵衛印	同	太兵衛印
惣内印	同	銀兵衛印
同	同村問屋	永吉印
同	組頭	長右衛門印
同	助五郎印	忠四郎印
同	治郎右衛門印	勘兵衛印
同	新藏印	同
同	庄藏印	与治右衛門印
同	伊惣治印	忠左衛門印
同	同	伊右衛門印
同	八右衛門印	

白川御領三城目村
御役人中

惣附子中

（名前は上段より下段へつづく）

四一八〔安永六年白河藩領三城目村荷物引継故障一件二付申入〕

問屋繼を以一筆致啓上候各様弥御堅勝ニ可被成御座珍重ニ
奉存候拙者共無異罷有申候間乍慮外貴意易被思召可被下候
然者先達而茂書状を以得御意候通於中畑村ニ荷物故障之義
御座候ニ付以来者右村江荷物継候義難相成仲間一統申合致
決定候右ニ付滑津村松崎村成共各様御評議を以て何れ江成
共都合宜舖場所江御継送り可被下候尤松崎村ニ者新舟も出
来申候段承罷在候得ハ得と御聞糺之上何分宜敷様ニ御了簡
可被下候此度道筋之義御頼御取分ケ被下候ハ、為御札撰場
無之候而も定撰格ニいたし進可申候間縦中畑村へ御遠慮御
座候共各様秘至ニ御頼申候得者御暖情被下是非〳〵両村之
内何れ江成共道筋御取分ケ被下度奉願候先達而一通リ得貴
意候計ニ而如何敷奉存候ニ付荷主并才料仲間一統申合再書
を以御願申上候上者丈夫ニ無御遠慮御取計イ被下度奉願候
依之此度ハ問屋繼送り之書状を以右御頼得貴慮度如此ニ御

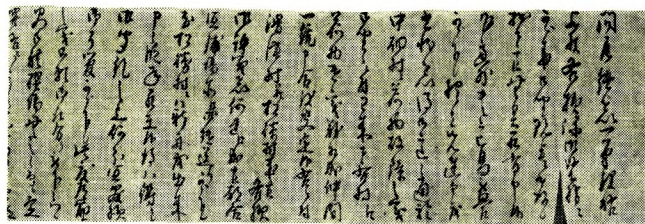
座候以上

七月三日

伊藤丈右衛門様

伊藤重郎治様

貴下



白河藩領三城目村荷物引継故障一件ニ付申入

才料仲間共[㊦]

野木長左衛門殿

右之趣村中江申聞候処逸々承知仕候然ル上ハ明和貳年入置候一札之通少しも相違無御座候ニ付御請印仍而如件

安永六

滑津村問屋

酉七月

野木長左衛門[㊦]

〔大池 伊藤光之祐家文書〕

四一九〔享和三年白河藩領三城目村道中荷物差押一件御

届〕

乍恐以書付御届奉申上候

右者先達而も得御意置候処又
又此度右文面之通申来候間弥
貴殿御村内江荷物継送り可申
候夫ニ付候而ハ明和貳年其
御村より書入置候一札之通兼
而御承知可被下候御村方御納
心ニ御座候ハ、右ニ御名前相
印遣候間御請印被成可被遣候
以上

三城目村問屋

酉七月

伊藤十郎治

御当番

伊藤丈右衛門[㊦]

滑津村問屋

一木葉并赤貝作煙草都合九駄也 塩田村牛方右者荷主三春御領大越村忠藏と申者荷物前村塩田村より継立来候処矢吹村馬指久三郎と申者当村相通し候而ハ不相成由ニ而差押へ申候右ニ付久三郎江私申聞候ハ往古より関海道と申テ西海道開ケ不申以前往古より之海道ニ候処既ニ先年種荷物通り候節中畑新田久来石笠石より馬差罷越差押候処出入ニ相成御役所江御注進申上候得者早速御役人桜本左平様高沼右四

郎殿御出被遊三ヶ村之者共へ被仰渡候へ北海道より決而相妨ケ不相成候趣四ヶ村之者共敷敷御呵ヲ請落着ニ有之候其許心得違之儀と申聞候所一向ニ承知不仕差押へ候ニ付無抛私右荷物預置申候往還之商人為相煩申候段急度矢吹村馬差久三郎御吟味被成下度奉願候則才料も私方ニ逗留仕罷在候依之差急ニ以御慈悲御下知奉願上候此段不取敢御届奉申上候以上

亥十一月廿一日

三城目村問屋

貞左衛門^印

組頭 儀 八

同 市右衛門

同 金 藏

同 作兵衛

兼帶庄屋代

橋本小右衛門

御代官所

享和三年亥

(裏訳書)

「表書之関海道之儀ハ往古より之道筋ニ而諸荷物上り下り共ニ自由之海道ニ承知罷在候最又天明年中ニも関東問屋六

右衛門問屋惣代ニ罷出関海道妨之御願仕候由之処商人惣代ニ同国結城町吉右衛門罷出於御勘定所ニ御留後布施弥次郎様より被仰付候ハ(中略)被仰渡候ハ商人之儀ハ問屋有

之場所ハ何国成共差支なく通行候義と承知奉存候矢吹宿馬指不届ニ付御役所裏江御訴可被成御村方兼帶庄屋此書付差出被成候之所右馬指甚以恐入候由ニ而同村方吉右衛門吉之丞兩人相頼貴殿迄心得違之趣達而御詫之上私江御内談被下候ニ付私迎も表立候事氣之毒ニ存候間御勘弁被下候様申上候ニ付御承引ニ而内々ニ御済被下共上御免之義恭存候趣ニ而詫人中一樽御持参之由是又私江も同席ニ而酒御振廻被下安堵仕候以来往来聊之妨害無之所々荷主才料之面々江為御知被成候様ニ仕申度為後証裏書仕置申処相違無御座候以上
三春領大越村荷主忠藏代

才料 市之丞判

三城目村御問屋

貞左衛門殿

〔大池 伊藤光之祐家文書〕

四二〇〔文化十一年正月幕領中畑村御廻米問屋願〕

乍恐以書付奉願上候事

高田御預所

石川郡

中畑村

一 当村之儀寛保二戌年榊原小平太様御領地ニ被仰付翌亥年
村高四万三千石余之御藏場ニ被仰付候後御代打統六拾七
年已来去ル已之年^(イ)迄初秋より春三月迄ハ日々御藏場江
俵拵其外諸人足百人余指出猶亦御廻米御荷物貳百駄余宛
一村ニ而小田川村より累年無御支御運送仕候御上知被成
候ニも仕候ニ付年来経候義ニも無御座候而右之馬数等も
相減不申所持仕候然ル処今般会津様御廻米并塩御国産之
品々平滑新海道御開御通し被遊候旨粗及承申候処当二日
当村分郷中畑新田問屋惣兵衛拙者共方江罷越申聞候ハ此
度会津様平滑通御荷物御運送御座候ニ付拙者御問屋可被
仰付義左も相成候ハ拙者宿方之儀ハ小村之儀ニも御座
候而親郷之義附子ニ相頼申度候猶又道橋等無損御越取計
可仕之一札差出呉候様申聞候ニ付其段村方江も申聞候処
ニ拾八年前未年ニも平滑通ニ而申頼度御趣意ニ而矢田

野村より柿之内村夫より中畑村継ニ道筋問屋場共ニ御調
相濟候義ニ御座候ニ而中畑新田附子旨申候而ハ一村之内
ニ而も枝郷より道法屯里半も相隔迷惑仕候而先年之姿を
以当村御繼場ニ御願被下度段願出申候殊ニ是迄西海道村
々ニ而ハ馬金等多分御拝借御願申上候様承知仕候得共当
村之義ハ前文にも申上候通五七七年より馬数四百余も御
座候上ハ右御願等右ハ指出申間敷猶又当村之儀ハ家数貳
百軒余御高貳千貳百石余之村方ニ御座候ヘ共御上知以来
御藏道も相除百姓農業一筋ニ罷成候ニ付御田地自然旨不
足仕甚以難洩仕候依之此度之御荷物御継送り之義被仰付
候様猶又当村広野之土地ニ而馬米等指支等も無御座候尤
薄田之処ニ而水田杯ハ道橋難場も御座候ヘ共多小人足も
御座候ヘハ道橋普請等無御指滞様取計出精可仕候上繼場
之義ハ釜子迄成共棚倉迄成共被仰付次第御請可申上候此
段厚御賢慮被成下置仍而御評情之上以御勘弁私共方江御
問屋被仰付被下置候ハハ難有仕合ニ奉存候以上

文化十一年正月十四日

〔中畑 岡崎長成家文書〕

四二一〔子八月中畑村荷物取扱ニ付惣村中へ問屋証文〕

請合申一札之事

一万諸商人荷物付送り之儀村望之通り廻リニ可仕候荷物参候次第ニ措者共端郷迄打廻リ荷物無滞様ニ可仕候事
一馬指之儀村より相立申度願申候得共措者共奉願候ハハ駄賃錢無滞請取参候度相渡可申候只今迄之様ニ日限一切滞申間敷候若駄賃錢荷物付手前老人と成共滞申候ハハ馬指シ村望之通御付可被成候其時一言之義申上間敷候
一荷先之儀三城目より参候一度朝馬取ニ番馬一度一日二度手前馬数ニ取可申候一日三度之先荷一切取申間敷候事
一武士荷物之儀荷口式文宛取申候事
右ヶ条之通少も滞申候ハハ馬指村より御立可被成も一言之義不申村中望之通可仕候為其仍文如件

子八月

惣村中

七兵衛

彦三郎

彦右衛門

〔中畑 岡崎長成家文書〕

四二二〔年不詳問屋荷口錢ニ付御返答書〕

乍恐以書付申上候事

三城目村問屋
伊藤十五郎
松崎村問屋
忠左衛門
中畑村問屋
七左衛門
同 惣三郎
右ハ村々問屋荷口錢之義諸商人諸荷物并穀物共ニ付送り申候分荷口取来申候尤手前馬ニ而付通り申候米雜穀共荷口取来リ不申候此外諸荷物之儀ハ手前馬ニ而付通り申候共荷口取来リ申候
右之通書上申候通相違無御座候以上

松崎村庄屋

忠左衛門

中畑村庄屋

長左衛門

同

七左衛門

三城目村大庄屋

伊藤十五郎

〔中畑 岡崎長成家文書〕

一三拾八文

輕尻耄疋

一貳拾八文

人足耄人分

中畑新田へ

一七拾六文

山駕籠耄挺 貳人分

一五拾壹文

輕尻耄疋

一三拾八文

人足耄人分

未ノ十一月十七日

〔大池 伊藤光之祐家文書〕

四二三〔未十一月十七日白河藩領三城目村公用通行用繼

賃錢〕

御公用御通御用繼賃夫

小高村江

一三拾三文

山駕籠一挺 貳人分

一拾六文

人足耄人分

一貳拾貳文

輕尻耄疋

岩法寺村江

一四拾文

山駕籠耄挺 貳人分

一貳拾七文

輕尻耄疋

一貳拾文

人足耄人分

矢吹村江

一五拾七文

山駕籠耄挺 貳人分

四二四〔元禄十三年二月白河領矢吹宿米附馬札下附触れ〕

矢吹村米駄賃付馬ニ其馬主木札相渡し置□□存候庄屋衆判

鏡矢吹村米問屋方へ遣し置木札持參不致ものニハ一切為付

不申様ニ御申斷置候様ニ可被成候来月朔日より御斷可然存

候木札渡候ものゝ内万一失候者在之事知不申候其時ハ矢吹

村問屋へ早速斷何と申もの札何月何日之日付有之札失候間

右之日付在之札持參候とも為付申間敷斷可仕候是荷札ひろ

い候者証拠ニ駄賃取いたつらもの之可有之時分ニ斷候へハ

松倉村馬主誰
庄屋^(寺方)右衛門
辰三月朔日

二月廿八日

〔中畑 岡崎長成家文書「万御用留帳」抜粋〕

能御座候札之仕様右之通札ニ而被遣
候様ニ可被成候失候時分月日違候断
問屋方へ仕置可然存候以上

伊藤十五郎

明岡村御名主

円谷幾右衛門様

滝川 大部^印
中之目村
長 吉^印

〔中町 円谷重夫家文書〕

四二五〔文化十年二月白河藩領明岡村長期宿泊願〕

〔包上書〕

「旅宿一札入」

差出申一札之事

岩城小名浜西町村

喜兵衛^印

一
右者此者無拠儀ニ付御当村忠兵衛殿方へ旅宿相願候処実正
ニ御座候此もの共身上ニ何様之儀出来候とも拙者共引受御
村方之極難ニ相懸申間敷為其国請村受之連印差出申候為後
証一札仍而如件

文化十年酉二月

岩城菊田郡



白河藩領明岡村長期宿泊願

四二六〔文政六年十一月幕領中畑村往来手形〕

往来一札之事

嶋田帶刀御代官所

奥州石川郡中畑村百姓

年三拾 忠次郎

右之者讃州金刀此羅大権現心願有之候ニ付參詣仕度段

願出申候ニ付其段支配役所江御訴之上差出申候間国々御関

所舟渡川步渡等無御指支御通可被下候猶又行暮候ハ、止宿

等は又被仰付被下度奉願上候万一途中ニ而病氣付長煩等仕

相果候ハ、其所之御作法ニ御取計可被下候為後日往来一札

仍如件

文政六未年十一月

庄屋

岡崎長左衛門

国々

御関所

御番所

宿々村々

御役元

〔中畑 岡崎長成家文書〕

四二七〔天保四年幕領中畑村道橋修繕積書上帳〕

〔表紙〕

「 天保四年

奥筋御大名様方御通ニ付道橋修繕積書上帳

卯正月

中畑村

覚

二枚橋苗手

立七拾間

但此土上ケ人足拾六人

横幅貳間

同所苗手境より東へ上り口迄

立三拾間

但此人足廿五人

横幅貳間

同所上り口より新道苗手迄

立貳百八十貳間

但 此人足貳百八十人屯人ニ付十間ツ、

横幅壹間半

草芝切はき

新道苗手

立六拾間

但 此人足六拾人両脇より土切土ケ屯間

横幅壹間半

ニ付屯人ツゝ

同苗手境より守山畑境迄

立五百四拾間 此人足

一 横幅耆間半 五十四人

同畑境より守山ヶ上迄

一 立六拾間 此人足三十人兩脇より

一 横幅耆間半 土中へ切込

同守山ヶ上より松倉道分ヶ道迄

一 立三百四間 此人足六十耆人耆人ニ

一 横幅耆間半 付五間ツ、

松倉訳り道より善四郎角迄

一 立百貳拾間 此人足十人

一 横幅

澄江寺内より板橋迄

一 立四百六間 此人足百拾人

一 横幅耆間半

板橋より板下迄

一 立貳百五拾四間 此人足四十五人

一 横幅耆間半 拾間ニ付耆人宛

坂下より作道台迄

一 立三百間 此人足六十人

一 横耆間半

作道苗手

一 立四十四間 此人足廿五人

一 横幅耆間半

メ貳千四百七拾間

此通法

人足メ七百七拾六人

二枚橋より作道迄

一小橋六ヶ所

此橋材木貳十本耆尺五寸廻り長サ九尺

右ハ当四月就日光御社參之奥筋御大名様方白川通御延引常

陸海道御通行被遊候ニ付道橋手入仕候場所相調書上申候尤

大人數掛リ候儀御座候間中々以村方計ニ而ハ行届不申間已

来安永度ニも御領分江被仰付候間何卒先格之姿ヲ以当御知

行所江御割賦被成下置度奉願上候右願之通被仰付被下置候

ハハ難有仕合奉存候以上

中畑村

天保十四卯年

組頭 惣兵衛

同 与 吉

同 熊 吉

同 長 五

同 勝 藏

同 新太郎
庄屋

小針登右衛門

岡崎長左衛門

河上順兵衛様

一 三百四十九人七分 中 畑
一 三十七人六分 大 畑
一 四十三人七分 ツ、ミ
一 七十一人六分 神 田
一 四十八人一分 中ノ目
一 五十八人九分 川 辺
一 百六十六人三分 中 野

〔中畑 岡崎長成家文書〕

四二八〔卯十月白河藩領三城目村関街道ニ付返答書〕

関海道之義御尋ニ付奉申上候

一 関海道之義者下野国板戸川岸より石末嶋野山鹿子畑

〔蛭田〕〔余瀬 寒井 伊王野蓑沢旗宿〕

但宇都宮出之荷物関道江相懸リ申候節者右宇都宮より
板戸江相達夫より前書之通通行仕候

久下田出之荷物

同久下田より真岡赤羽稲毛田台新田夫より嶋野山鹿子畑

〔福原 余瀬 寒井 伊王野蓑沢旗宿〕

右之通関海道路通行仕来申候是より奥筋口継場之義者田嶋双
石白川番沢金山仁井田江当時本道筋之義者海道御奉行御支
配白沢より白川迄関道迎茂右准シ板戸より旗宿迄奥筋迎茂
奥州道中ニ者御座候得共何れを関道と申上兼候訳柄ニ御座
候御尋ニ付此段奉申上候以上

旗宿検断問屋

卯十月

甲賀 官 蔵

御代官所

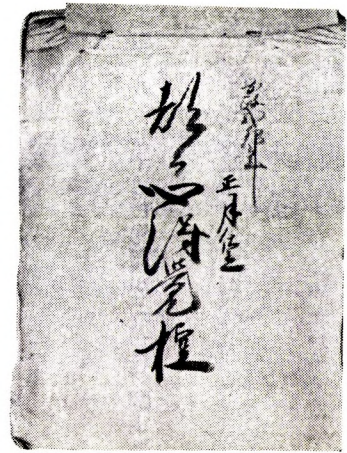
〔大池 伊藤光之祐家文書〕

四二九〔安政二年正月・矢吹宿駅万覚〕

〔表紙〕

「 安政貳卯年正月仕立

都 而 心 得 覚 控 (抜粹)



矢吹宿駅万覚

嘉永四歲亥二月廿八日

当所宿内町間相改置

上枡形より下枡形迄六町五拾三間也

宿内此時役人

長百姓

佐久間七郎右衛門

上之御差留ニ付三郎

組頭

右衛門事 平山孫右衛門

同

大野 文 藏

但し名面而已組頭

同 長尾 半 藏

宿惣代役勤メ

庄屋

佐久間 半助

同検断

笹山 登助

年寄大野佐市後見

横川 栄之助

検断

笹山久左衛門

当所飯森奉公人^(シマ)も元三百文処女老人ニ付四百文宛取極メ同

人同計―伊右衛門―附女諸運上も其時より追々増ス

今者其節より役人并旅籠屋行司相談之上諸運上又増ス借家

ハ運上老軒六百文ツ、老ケ月ニ水吞運上ハ老軒ニ付四百文

ツ、此運上金ハ宿内之非常之節そない金ニ致し置

行司仲間

大野 文 藏

長尾 半 藏

平山 孫右衛門

緑屋 半兵衛

ふじや七左衛門

古川や 祖名吉

新酒屋

白木屋徳兵衛義酒造株滑津村酒造人水野谷半兵衛株讓請御役所願出御聞濟ニ相成滑津村ハ塙御支配所也当御役所より御引合之上御聞濟ニ相成右徳兵衛酒造仕候

嘉永七寅年極月より宿内ニ酒出し候

右徳兵衛義ハ

辰兵衛と申者之弟也

此酒造株金五拾兩ニ而引請

新酒屋元長沼屋源藏之孫

長沼屋源左衛門儀酒造之願同人株式之義ハ桑折御支配所中津川村庄屋村上軍藏株讓請役人共方ハ願出役人衆当役所江相願桑折御陣屋ハ御引合之上御聞濟ニ相成酒造家ニ相成弥以桑折御役所より御下知済合安政二卯六月中同年秋より造り初候売買致候

此酒造株金四拾兩余ニ而引請安政二卯年九月初より売□申候

一安政二卯九月中御上より被仰出候事

異国船渡来ニ付東海道品川ハ御代場於御公儀新規ニ四ツ

出来ニ相成候

諸御大名様方御形目被仰付候也

一当御領主阿部播磨守様杯も異国船渡来ニ付武両具金御差立ニ付御領分ハ

御用金被仰出候

安政二卯六月中之御用金割合当宿方ハ金五拾兩ハ宿方割、役人ハ三拾兩下新田ハ拾匁兩程被仰出候御領分御割合故無抛御請仕候

此金割合三度ニ差上可申候

亦候江戸卯ノ十一月二日夜大地震ニ而諸々江戸御大名様御家數大損事ニ付御領主様御家數杯も少々之損事ニ而も同年十一月二日夜大地震ニ付同年十一月五日ニ御用献納金被仰付同様御領分不残割合宿方之御割合金百三拾四兩也下新田迄

安政二卯年十一月

御用金割

金式拾兩也

右

大野 左市

同斷

横川 栄藏

外ニ見覺之酒造分永質屋綿屋共ハ役人見立割付申候

安政二年卯十一月中

右金割合六兩也是へ割合跡金足候メ金拾五兩也

金拾五兩差上

大緑屋緑川与左衛門

為冥加として苗字帶刀御免ニ被仰付候

同年

先金五兩也 酒造家ニ付

長沼屋

跡金拾兩也

和田源左衛門

為冥加として苗字帶刀御免ニ被仰付候

同年

元金壹兩一朱也

亀屋

跡金拾四兩三分貳朱也差上

手嶋弥三郎

同断冥加として苗字帶刀御免ニ被仰付候

同年

先金共ニ

本筑前や

一金五兩也差上

仲西喜右衛門

同断苗字御免被仰付候

同年

先金共ニ

米筑前屋

一同五兩也

同喜平

同断苗字御免被仰付候

同年

先金共ニ

川崎屋

一同五兩也

佐藤 栄藏

同断苗字御免被仰付候

同年

先金共ニ

白木屋

一同五兩也

佐藤 徳兵衛

同断苗字御免被仰付候

同年被仰付候

大野や角右衛門之儀ハ異国船ニ付御備ニ付鑑札獵師ニ付御備之時御足輕組ニ而苗字帶刀相ゆるしニ相成候平日ハ

不相成御備之時計候也

同年

一白木屋徳兵衛と同断ニ付右同様被仰付候

同年

一以勢屋善次之義も同断被仰付候

右三人者忝所ニ御呼出し上被仰付候

同年

一金百匹

会田久左衛門

御用金取計方寄毒ニ付御称美として袴地代として被下置

也

同年

一同百足

笹山 登助

為御称美として被下置候

同年

一同百足

佐久間 半助

為御称美被下置候

同年

一同百足

会田 与市郎

同断被下置候

右者宿方名面付ニ而大庭御役所江御呼出之上御称美として

左之通卯十一月七日四ツ時被仰付候者也

右者跡御用献金之儀ハ借家裏家迄金貳朱一朱ツ、迄割合百

三拾四兩割合来ル安政三辰年三月より十二月迄ニ割合取立

仕候

安政三辰六月十四日 御役所江御呼出之上被仰付候

ふじや七郎右衛門儀

献納金前々より金四五両も差上置候ニ付此度御称美とし

て苗字御免被成候

同年同月同日 御呼出之上被下者也

一若松屋伝藏儀

常々心掛宜敷家陸敷農業出精いたし御称美として鍬耒挺

被下置候

同年同月同日 御呼出之上被下置候

一元荒木屋要吉跡茂助倅安吉儀

常々心掛宜敷家内陸敷農業出精いたし御称美として鍬耒

挺被下置候

安政三辰年六月十四日御呼出之上被下置候

下新田八百屋茂吉娘登よ義

当年拾七歳ニ而平日心掛宜敷農業を出精いたし御称美と

して

青差耒貫文被下者也

安政四年巳五月八日退役

笹山登助病氣ニ付退役願面ニテ相願

願ニ付当月九日退役被仰付

検断問屋庄屋致 三役退役

乍併倅武助儀庄屋検断問屋三役三ヶ年以前ニ見習役被

仰付置候

安政四年巳五月中

一 蔦屋伊右衛門倅秀四郎殿義

役所向ハ半五郎

右半五郎義当五月八日庄屋役免被仰付候

尤小前ニ而ハ庄屋役免之義ハ内密之由ニ御座候

附リ親佐久間伊右衛門

元メ役小池六兵衛様御式人ニ付

倅佐久間半五郎見習役無し直ニ本役被仰付候

安政五年六月十四日夜大水ニ而車屋共流れ

中島屋佐市車大工吉藏江貸し流れ

附リ以前之高水より此年迄六拾六年目と皆人申也

一 同年同夜 陣場車ふじや持車流れ

一 同年同夜 川向大久田車屋流れ

一 同年同夜 同所ニ少し隔テ白木屋徳兵衛持車

去巳十二月中大和久村談事車建

翌年六月十四日夜流れはハ漸普請出来上ニ相成計

其外新城下小屋車共流れ参り候此以前大高水

水より当年へ六拾七歳ニ成ル

奈須嶽大丸北湯申岸湯杯ハ少々損事

奈須湯ニ而人式百人程死ス山崩れ大水ニ而其村流れ

是ハ黒羽御領分

同年

一 自分持抜田古給田四ツ大サ字のろかぶり相成候右式繩ハ

一円ニ少しも稲先出不申候五拾七年以前ハ御先代 松平

越中守様御ニ而其時ハ御上納皆無ニ有之候事当御代阿部

様ニ御座候得者 御上納向ハ御内々ニ候哉地元役場ニ而

御引方無之乍併当御代御領分西東川筋ニ而ハ御田地砂入

川欠のろかぶり御領分中ニ而ハ高大之損事也石ニシ而田

畑ニ而ハ何万石ニ有之候哉

安政五年年十二月十二日被仰付候

附リ御役所へ御呼出之上

一 御才覚金被仰付候ニ付御請申候

是ハ御領分之内高水之損事引方御利解之計ニ付是へ之

御手当テニも相成候哉被仰出候

一金六兩也 質屋渡世 横川 栄助

内三両也 同年十二月廿八日納叶屋

同三両也 来未五月中納筈

酒造商ハ

一 同六兩也

佐野 左市

同断納

中 爲^(船)屋

質屋油醬油屋

一同四兩也

仲西喜右衛門

内式兩也はん極月廿八日納

本筑前屋

同式兩也来未五月中納筈

穀屋質屋

一同四兩也

同 喜兵衛

同断式度之納

隠居筑前屋

酒屋渡世ニ付

一日三兩也

和田源左衛門

同断式度納

長沼屋

一同三兩也

佐藤 栄藏

同断式度之納

川崎屋

外ニ緑川与左衛門手嶋弥三郎兩人共ハ安政四巳年九月中

柴田屋栄藏後家之家借家致大沢屋留吉娘是より出火ニ相

成候節焼ニ付兩人共此度之御才覚金除キ相成候

尤右兩人共御上より御手当金拝借請不申候兩六人之者月

廻ニ相成候故押而相願宿役人ヲ以式度之納ニ相願申上候

御聞濟ニ相成候

尤右御才覚金之義ハ当宿計リニ而も無之白坂御城下当宿方

須賀川其外在々ニ而も被仰付候也

安政六未正月改置也

安政七年申三月晦日年号改而万延元庚申年成ル

此年春より都而米高直ニ候

春より六七月迄白米壹升百十六文ツ、

追々直上リ相成九月十月十一月十二月ト成テ

白米壹升 十二月相場百四拾六文ツ、

塩壹升 百文ツ、

油壹升 八百四拾文ツ、

大豆壹分ニ付 壹斗式升買入穀屋相場

小豆壹升 百六拾八文ツ、

都而成物類七月中大嵐ニ而不足

尤此年七月中大高水有り作方無上一鉢不可也乍併アメリカ

人江戸横浜湊江幸易之為哉都而絹糸柴かやのみいほら何等

不限高直候

成物類米類麦大豆小豆粟稗ニ不寄諸国一体之高直ニ御座候

尤此年之不作物ハ訳テ

第一 大豆 是大不作

第二 小豆 胡麻油稗粟類ハ不可也

去ル己申年見取レハ大飢饉

錢直壹分ニ付壹ノ五百八十文紙類去未年より高シ

文久三戌十月廿三日夜

上町之焼失

火元

惣 吉

中筑前や持屋敷也

後 五藏木挽 借家

上 白木屋猶右衛門本家

水吞 八 藏

若松屋 栄 藏隠居

川崎屋 徳兵衛隠居

白木屋

水吞仙台屋おのゑ

徳兵衛持家

水吞 別白木屋

ノ七軒

上町類焼人拝借

文久二戌十一月廿三日夜出火

火元

惣 吉

一金七兩也

百姓

徳兵衛 一同七兩也

同

喜

平

一同七兩也

猶右衛門 一同五兩也

水吞

栄 藏

一同五兩也

同

仙

吉 一同五兩也

同廿本人
ゑ へ

ノ三拾六兩也

右之者共何卒御拝借被 仰付被成下置度奉願上候以上

文久三亥三月中 式度同之願へ

慶応元年丑十月改置候

当百錢是迄之通百文通用

壹分ニ付壹貫六百文直段

同青四文錢拾貳文ツ、通用之処同年九月より八文ツ、通

用ニ相成候

同年九月より文久錢八文ツ、通用処六文ツ、通用ニ相成

候

一当所現米壹分ニ 八升壹はい

一大豆 壹分ニ 九升直段

一蕎麦 壹分ニ 壹斗九升四合直段

一小豆壹升百八拾文ツ、

一塩壹升 貳百拾文ツ、

一油壹升 壹ノ三百文ツ、

安政七申年二月廿一日ニ当宿

坂本陣横川栄助昼宿

一江戸表江^{フナ}墨利^{イリ}伽人 三ヶ年以前より渡来居候猶 公儀ニ努之思召シメ 新地出来幸益場出来右唐人之遊女場出来当年迄も罷居候

一同阿羅^{アラ}者人 五人之内男^ヲ三人女^メ二人江戸表より松前へ罷下り申候

松前よりヲロシヤ公儀より差下らせ候ニ付此辺往辺相成申候 右五人唐人長棒駕籠式挺三挺此辺駕籠也 白川泊り当所坂本陣昼須賀川泊り江戸ヨリ松前箱館迄ハ公儀ヨリ其所之領主々江達し之上往辺致候

ヲロシヤ人五人江從公儀御附添役人

御証文ニ而 三頭 駕籠

御徒目附 屯頭 同

下役 屯頭 同

其所之御領主役之御馳走御締役として

当所へハ郡奉行 屯頭

御代官 屯頭

参見 三人

外ニ 足輕為手伝として近在庄屋衆

雨道具笠簀 拾三人

(カシヘン) 勘毬^{カシヘン}屯人ニ屯口宛御下ケ被下候

作場道 石川道 長沼道相備申候

(略)

〔本町 平山寿満家文書〕

四三〇〔慶応元年五月旗本領村飛脚先触状〕

乗輕尻馬屯足

右者松平軍次郎飛脚

岡崎健五郎明廿六日

奥州石川郡中畑出立

江戸屋敷江罷越之条

書面之通駅々無遅滞

被差出候様頼入存候以上

松平軍次郎知行所中畑詰

松平周防守家老

付閏五月廿五日

岡村又右衛門

從奥州石川郡中畑

武州千住迄

右宿々

問屋中

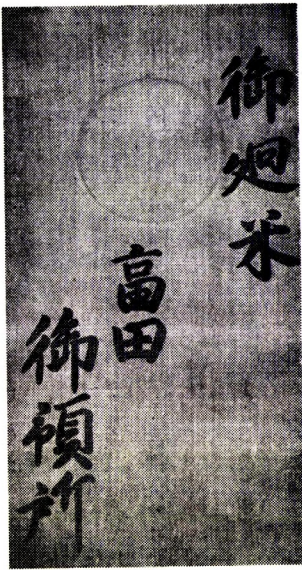
〔中畑 岡崎長成家文書〕

(二) 廻 米

四三一〔享保十七年十月三春廻米米宿引請証文〕

差上申証文之事

一三春御領内赤沼村出シニ而江戸為御登御米白川領浜尾村より前田川村三城目村泉崎村通り白川町迄附送之儀去ル酉年願申上段々御米附送申候駄賃等之儀ハ先達而証文指上置申候通ニ御座候右三城目村より泉崎村迄道法三里余御座候処弱馬等通兼申候付御荷物滞御才料申度々御逗留も有之私者不働ニ可被思召と迷惑至極奉存候依之白川表



御廻米旗 (堤 吉田清作家蔵)

江も内伺仕同領中畑村本郷庄屋岡崎甚左衛門と申者方へ私共以相對只今迄中宿頼置御米附送申候右甚左衛門と申者慥成者ニ御座候付私共此度願申上甚左衛門儀問屋ニ被仰付被下難有奉存候御米少ニも無相違粉失米又ハ霏俵減穀等御座候ハハ御才料中御吟味之上何分ニ成共足シ米仕可申候右甚左衛門御米宿之儀ニ付如何様之儀も御座候ハハ少も御苦勞ニ相懸不申私共埒明可申候為後証仍如件
享保十七年子十月

白川領三城目村問屋

近藤市郎右衛門

同 領前田川村問屋

遠 藤 瀬兵衛

同 領浜尾村問屋

山川兵右衛門

秋田信濃守様

御役人衆中

右三人之者共奉願私此度御米宿被仰付難有奉存候御米之儀右問屋共証文指上置申候通少も無相違運送可仕候尤附子共証文手前ニ取置申候以上

白川中畑村本郷問屋

岡崎甚左衛門

〔中畑 岡崎長成家文書〕